

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の下で個人を尊重し、自立に向けた生活の援助や地域とのかかわりを深め、その人らしく暮らしていただくよう支援する。	○	理念の徹底に努めていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室に掲示し、日々確認するよう指導している。	○	理念を事務所内に掲示したり、申し送りの中でも話したりしているが、記憶の中で薄らいでいくため、定期的に理念の確認をしていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や季刊誌などで取り組みなどの報告をしている。	○	運営推進会議等を利用し、地域のかたがたにも認知症高齢者に対する理解をしてもらい、認知症高齢者が安心して暮らせる地域社会を目指したい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の通勤時や入居者との散歩や買い物時には挨拶を交わし合い、コミュニケーションに努めている。相談に立ち寄られたりすることもある。	○	積極的なコミュニケーションに努めたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や市政だより・地区の福祉委員会等で情報を集め地域活動に参加している。地域の防災会に加入し、訓練にも参加している。	○	運営推進会議にて地域代表の方々に協力・相談を行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通じて相談していただけるよう話し合っている。実際に相談に来苑されたこともある。	○	運営推進会議を中心に引き続き取り組んで行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を各職員全員に取り組んでもらい、各自の行っている援助の確認をし、改善につなげている。	○	日中のエレベータ暗証番号の介助や、ケアプランの充実に取り組んでいる。急変時の対応の訓練に取り組んで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議が定着し、忌憚りの無い意見が聞かれるようになり、記録を全員で閲覧し、サービス向上に活かしている。	○	メンバーを通じて地域とのかかわりを更に増やして行けるよう働きかけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健福祉部高齢介護基盤推進プロジェクトチームとは常に相談できる環境になっており、市と一体となって質の向上を目指している。	○	市の担当課とサービス内容や記録類など相談して作成して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している利用者は現在のところありませんが、個々の必要性を行政機関の関係者と相談等は行っている。	○	現在行っている施設内外の人権研修の積極的な参加を継続していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し、伝達研修を行っている。また、スタッフの悩みやストレスを抱えていないかなどを把握できるよう話しやすい雰囲気作りを心がけている。	○	事業所内で虐待が無いよう、職員の精神的なフォローを心がけて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退居時には面接にて十分に話し合い、理解・納得されている。	○	問題点を十分に検討し、利用者本人にとっての最善方法を一緒に考えている。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満等は傾聴を心がけている。	○	利用者と信頼関係をよりいっそう深め、不満などを忌憚無く言えるような雰囲気作りを作っている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な季刊誌や、担当者より家族へ生活状況を定期的に報告している。また、心身についての変化のあるときは、その都度電話にて報告している。	○	家族の面会時にも利用者の日々の生活に関する話を話している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に希望や意見が聞けるよう声かけし、また、出された意見をミーティングで話し合い反映させている。	○	苦情窓口を設けているほか、市の介護保険課や国保連の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。また、事業所内に苦情受付の案内を掲示している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングに参加し、職員の意見や提案を出してもらい易い雰囲気作りを心掛け、また出された意見は反映させている。	○	現状を維持していきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の人数に限りがあり難しいこともあるが、できる限り努めている。	○	併設施設の職員との交流に努め、柔軟的かつ即応的な人員確保ができる体制がとれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員の固定化を原則とし、なじみの職員によるケアを大切にしている。	○	離職を防ぐために、職員のストレスや仕事に対しての不安要因を改善できるように、職員間で援助に対する考え方や悩みの相談などができるような雰囲気作りに努めて行きたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会を設け、職員のスキルアップへと繋げている。	○	職員ひとり一人が、自主的に研修に参加したいという考え方を持ってもらえるように、内容を厳選して決めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会や大阪認知症グループホーム協議会に加入し、研修会や勉強会に参加し、情報交換・サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	施設外での研修などを大切にし、情報の交換を行いサービスに活かして行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各職員が日々の中で報告し易い雰囲気を作るようにしている。	○	法人全体のレクリエーション（日帰り旅行など）また、職員同士の交流会、福利厚生に積極的に行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設内研修会など多く実施し、スキルアップに努めており、資格取得のサポート体制も取り入れている。	○	施設内外の研修の機会は出来るだけ多く確保していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	常に利用者の視点、利用者の側にいることを心掛けている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	入所時までの経過を、入所相談支援経過として記録している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○	現状を維持していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	職員や他の入居者と早く馴染めるように仲介し、よい関係が築けるように配慮していく。体験入所制度の活用を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	本人の出来る事とできないことを把握し、出来る事を役割として行えるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況を報告したり季刊誌を発行したりし、また、状況に変化があれば報告をし、協力を得ている。	○	家族の精神面でのケアも視野に入れたり、家族の考えも取り入れながら援助していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に参加できる機会を多く作り、来苑しやすい雰囲気作りに努めている。	○	今までどおり家族との連携を大切にし、利用者の現状に理解してもらえるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院・歯科医院・スーパーへの買い物の支援や、デイサービス利用者の友人を訪ねられるよう支援している。	○	家族にお願いし、お友達の面会の機会も多くしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を常に把握し、情報を共有し団欒や作業などで関われるよう努めている。	○	利用者同士が協力し合える雰囲気作りを心掛けていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な家族には、必要時に連絡を入れ、断ち切らない関係にしている。	○	家族等が気軽に来苑してもらえるような雰囲気作りと職員のコミュニケーションの調和に努力している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから本人の意向を聞き、本人らしさを大切にできるようカンファレンスを行い、把握に努めている。	○	職員は常に本人の「想い」を知り得るよう、本人とコミュニケーションを図るように努めていきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査や入居後の本人や家族との会話で新しい情報の把握に努め、得た情報は記録している。	○	サービス計画書の暮らしの状況をスタッフ全員が確認し、認識を共有できるよう努めていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の様子は記録し、全職員が閲覧し把握するようにしている。	○	現状を維持していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	普段の会話から、本人や家族の希望や看護師・主治医にも意見を聞き、職員間の日々の細かな情報交換により介護計画へと繋げている。	○	家族の面会時には現状の報告をし、家族の希望や利用者に合った介護計画を作成したい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員がモニタリング時に意見を出し、見直しを行い、変化が生じた場合にもカンファレンスを行い現状に即した計画を作成している。	○	利用者の現状に即した介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援実践を、個別日誌やチェック表に記載し、職員間で情報を共有し介護計画に活用している。	○	各利用者の気づきや変化などを記録していき、計画に活かして行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内のクリニックや訪問看護の連携により24時間医療連携体制を行っている。併設のデイサービスへ訪問したり、訪問されたりもしています。	○	利用者や家族から喜ばれるサービスの提供をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の高齢クラブとの交流や、地域の防災会に入会し防災訓練に参加している。運営推進会議でも協力お願いしている。	○	地域との関わりや、良い協力体制を継続していけるよう努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用されている利用者はいない。	○	利用者の意向や必要性があれば検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在必要性がないため、行っていない。	○	利用者の意向や必要性があれば検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が同一法人クリニック医師が主治医となっている。状況により他の医療機関への受診も支援している。	○	本人及び家族の希望を尊重し、随時、主治医と家族・職員で面談を行い、病状説明や今後の方向性など話し合う機会を作っている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在治療を受けている利用者はいないが、専門医と連携し、支援ができる状況にある。	○	緊急時の受診や相談を受ける体制の構築に努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制になっており、看護師が毎日来苑し、健康管理や異変時のアドバイスも受けている。24時間相談・助言を受けられる体制になっている。	○	看護師と相談しながら職員の知識を深めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	関係病院とは管理者が中心となって連携をとっています。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合等についての話し合いは入居時に話し合っているが、現在対象の利用者はいないため意思の確認が取れていない。マニュアルは全職員が周知している。	○	重度化した場合は機会を作り家族・本人の意思確認を取れるよう取り組みたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や本人の希望があれば同法人内の主治医・訪問看護・ホーム職員との連携で対応できるようになっている。	○	ターミナルケアについての勉強会の充実に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者で充分話しあい情報交換を行い、ダメージの予防に努めている。	○	体験入所・私物の持込に積極的に取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々プライバシーを損ねないように心掛け、個人情報の取り扱いを定めて実行している。	○	利用者の尊厳やプライバシー保護の認識を常に保てるよう日々の業務の中で徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事においても本人の意思を大切にし、自己決定ができるよう支援している。	○	集団生活の場と個人生活の場を認識した支援体制をより向上したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員側のペースになるときもあるが、無理強いしないよう本人の体調や気分・希望にあわせ、ひとり一人のペースを大切にしている。	○	利用者のペースを大切にし、訴えがあれば出来る限り解決していけるような体制作りに努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪の毛を切る・パーマの希望などにあわせ、行きつけの美容院へ行けるよう支援している。ネイルケアやフットケアのボランティアも受け入れている。	○	職員自身も身だしなみやおしゃれに配慮した声掛けや話題づくりに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのできる範囲内で無理強いせず、職員と一緒にやっている。	○	利用者のレベルに合わせた役割がスムーズに出来るよう対応の方法を考えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコやお酒に関しては希望がないが、おやつや飲み物、他の嗜好を、医療的な範囲内で日常的に楽しんでもらっている。	○	「自由」「その人らしさ」を基本にした支援体制を継続していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとり一人の排泄パターンを把握し行動を観察し、失敗しない気持ちよい排泄ができるよう支援している。リハビリパンツから布パンツに移行できた利用者もいる。	○	トイレでの排泄の自立に向けての支援を行っています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事の都合で多少の変更はあるが、なるべく希望に添えるよう努めている。また、季節に合わせ菖蒲湯・ゆず湯なども楽しんでもらっている。	○	変わり湯の楽しみを増やしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、必要に応じて静養できるよう支援している。	○	季節や気温も考慮し、戸外での活動も取り入れています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る力を活かし、役割や楽しみを感じてもらえるよう支援している。	○	いろいろな活動をもっと増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	一緒に買い物に行った時に希望のものを購入で きるように配慮し、財布を持って支払いが出来る よう支援している。	○	現状を維持していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	介護量が増大し職員の人数に限りがあり、その日 の希望に沿っては出来ないこともあるが、なるべ く買い物や散歩に行けるよう努めている。	○	広いベランダを活用している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	コンサートやお花見・大型スーパーへの買い物な どの機会を設け支援している。	○	観劇なども機会を作りたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	本人の希望があれば電話をかけたり、年賀状など を書いていただいています。	○	現状を維持していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	いつでも誰でも気軽に訪問していただけるような 雰囲気作りをしている。	○	現状を維持していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	全ての職員が具体的な身体拘束の意味を理解しケ アに取り組んでいる。	○	現状を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の無断外出の危険性を、鍵を掛けることの弊害を理解しており、行動のパターンや精神状態の把握に努めています。	○	日中はエレベーターの暗証番号を解除しています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して利用者のプライバシーに配慮し安全確認を行い、チェック表や記録に残しています。	○	現状を維持していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの出来る事・出来ないことを把握し、その心身の状態を見逃さず、職員と共に見守りながら使用している。	○	保管場所を決め定期的にチェックし表に記録している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書に記録し、ミーティングで対策を検討し防ぐための知識を学び、安心した生活が出来るよう事故防止に取り組んでいる。	○	現状を維持していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救命講習へ参加する機会を設けている。また、急変時の対応のマニュアルを作成し掲示している。	○	新しい職員への指導の強化を徹底したい。看護師を交えた勉強会を増やしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	状況に応じた出入り口や避難経路を話し合い、定期的に訓練をしている。地域との防災訓練にも参加している。	○	現状の手順書の遵守や地域住民の支援が得られるよう交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時や電話などで日々の様子を伝え、リスクについて説明し話し合っている。	○	家族とのコミュニケーションを大切にし、リスクに対する理解を深めていただける工夫をしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日ごろの各利用者の体調を把握し、異変時には朝・夕の申し送りにて報告、伝達を行い、必要時には看護師に報告し後の対応に繋げている。	○	現状を維持していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者ごとに、使用している薬のリストをファイルし、目的や副作用等が分かり易いように工夫している。	○	新しい職員にも薬の大切さを指導し、副作用等の周知・徹底に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の内容や量・水分摂取量の把握に努め、毎日のラジオ体操等を行い身体を動かすよう取り組んでいる。	○	現状を維持していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各利用者の出来る能力に応じて、必要・適切な支援をしています。	○	現状を維持していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに応じた食事量を把握、提供し、1日トータルの水分量をチェックしています。刻み食やトロミ食にも対応している。	○	現状を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを見やすいところに設置し、利用者・職員・面会者共に手洗い・うがい・消毒を徹底し、予防に努めています。	○	現状を維持していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒に関するマニュアルを設置し、調理用具等の定期的な消毒を行い衛生管理に努めている。	○	現状を維持していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関回りには花を植え、手入れ時には近所の人々が親しく話しかけてくれている。	○	家庭的な雰囲気作りに努めています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には手作りカレンダーや季節のポスターを飾ったり、テレビなどの音量や室温等にも配慮し、居心地の良い生活を心掛けている。	○	現状を維持していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやたたみコーナーを設け、広いベランダと共に自由に過ごせるようにしている。	○	現状を維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや家族の協力の下で長年使い慣れた家具や仏壇などを持ち込んでいただき、安心して過ごせるよう工夫しています。	○	現状を維持していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は常に換気に気をつける工夫をしている。外気との気温差が大きくなるよう温度調節にも配慮している。	○	現状を維持していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況を把握し、必要な場所に手すりを設置し、身体機能を維持できるよう配慮している。	○	現状を維持していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの分かる力に合わせ表示を工夫し、混乱や失敗を防いでいます。	○	現状を維持していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広いベランダは自由に出入りでき、夏祭りやバーベキューなどの食事会、ティータイムなどを楽しみ、プランターで草花や野菜を利用者と一緒に育て園芸を楽しんでいます。	○	現状を維持していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

質の高いサービスが提供できるよう、研修会の参加や、自主的な勉強会を多く設け、認知症ケアの専門性の向上に向けて私たち職員は研鑽しています。